

学 位 論 文 審 査 要 旨 公 開 審 査 日 2018 年 3 月 28 日 (水)

報告番号：甲・ 乙 第 2135 号	氏名： 権藤 麻子	
論文審査 担当者	主査 教授 小田原 雅人 印	副査 教授 大野 芳正 印
		副査 教授 宮澤 啓介 印
<p>審査論文の題目： 血液透析患者に対する簡便な内因性インスリン分泌能検査法の検討</p> <p>著 者： 権藤麻子、松本博、岡田知也、長岡由女、吉野麻紀、外丸良、岩澤秀明、和田憲和、朱時世、林亜美、中尾俊之</p> <p>掲載誌： 日本透析学会誌 41：187 -193 (2008)</p>		
<p>論文要旨： 糖尿病性腎症による透析患者は近年増加が著しく、これらの患者の糖代謝動態を把握する上で、内因性インスリン分泌能を評価することは重要である。経静脈内ブドウ糖負荷による急性インスリン分泌反応の測定により、患者自身の内因性インスリン分泌能を評価することはすでに確立された方法であるが、同負荷試験を血液透析施行中に行うことで同様に評価可能か否か検討した。対象は、血液透析中の患者 63 例（男性 48 名、女性 15 名、平均年齢 69.7±9.3 歳、透析歴 32.6±66.3 ヶ月）、原疾患は糖尿病性腎症 54 例（インスリン治療者 18 例）、腎硬化症 8 例、ANCA 関連腎炎 1 例である。全患者において、血液透析施行中の昼食前、または夕食前に体外循環回路より 50%ブドウ糖 20 mL を 1 分間で静注負荷し、静注前、5 分後、15 分後の血糖 (GLU) と血清インスリン (IRI) および C-ペプチド (CPR) を測定した。また、19 例に非透析日の早朝空腹時に同様にブドウ糖静注負荷を行い、ブドウ糖負荷前後の GLU と IRI および CPR の濃度変化 (5'△, 15'△) を両者で比較した。血液透析施行中検査と非透析日早朝空腹時検査の相関関係は、5'△IRI (r=0.952, p<0.0001)、15'△IRI (r=0.827, p<0.0001)、5'△CPR (r=0.781, p<0.0001)、15'△CPR (r=0.725, p<0.001) といずれも良好であり、とりわけ 5'△IRI が最も強い相関を示した。また、糖尿病透析患者では非糖尿病患者にくらべ、5'△IRI は有意に低値であった (p=0.002)。血液透析患者の内因性インスリン分泌能は、透析施行中の簡便な検査で評価可能と考えられた。患者にとっては無侵襲な、医療者にとっては極めて簡便な検査法であり、ルーチンの臨床検査法として普及が期待できる。</p>		
<p>審査過程：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の臨床的な目的や意義に関する質問に対し、的確な説明がなされた。 2. 内因性インスリン分泌能の検討による治療法への寄与に関する質問に対し適切な説明がなされた。 3. ダイアライザーの種類の違いによるインスリンの除去率の違いがデータに及ぼす影響に関する質問に対し適切な説明がなされた。 4. 本研究による新たに得られた知見や研究の限界について妥当な説明がなされた。 		
<p>価値判定：</p> <p>本研究では、糖代謝異常やインスリン分泌能の評価が困難な透析中の糖尿病患者における、インスリン分泌能を簡便に評価できる方法を提案している。透析患者において糖尿病の薬剤選択は困難を伴うことが多い。本研究結果より患者のインスリン分泌能を、これまでより簡便な方法で評価できることが明らかになった。本研究結果は、糖尿病合併透析患者の、より安全な治療法の選択に寄与すると考えられ、学位論文としての価値を認める。</p>		